

2025(令和7)年度 部局マニフェスト

～私たちの組織使命と目標～

部局名	上野総合市民病院
役職	副院長
氏名	松田 克彦
連絡先	0595-24-1111



業績目標の標語(指導者評価)
 目標としていた達成水準を上回る成果を出した(100%超)
 目標としていた達成水準に到達した(100%)
 わずかに目標の達成水準に達しなかった(90%以上100%未満)
 目標の達成水準には届かなかった(60%以上90%未満)
 目標の達成水準までは遠い結果となった(60%未満)
 目標達成のための取り組みが見られなかった

業績目標	表題	現状や課題	達成水準 (どこまでできれば達成したといえるか)
◎部局目標1 市民が安心できる医療の持続的な提供	関連の施策・基本事業No: — 経営の安定	<p>〈これまでの経緯〉 2018(平成30)年度から単年度黒字決算が続いたが、新型コロナウイルス感染症による患者数の減少、物価や賃金の大幅な上昇により、令和5年度に6年ぶりの赤字決算となり、令和6年度も赤字決算の見込みとなっている。</p> <p>〈取り組む目的〉 公営企業として安定した経営基盤を築き、必要な人材を採用するとともに、医療機器等を適切に更新し、良質な医療を持続的に提供する。</p> <p>〈現状分析〉 全国的に物価と賃金の伸びが、診療報酬による医療収入の伸びを上回るため、当院だけでなく経営難に直面する病院が増えている。</p> <p>〈課題〉 医師の確保やスタッフの資質向上等によって、提供する医療の質を向上させ、患者から選ばれる病院となることで、患者数を増やし医療収入を向上させる必要がある。</p>	<p>〈目標数値〉 キャッシュフロー 9億円以上</p> <p>〈達成された状態〉 一般会計からの基準外繰入金や一時借入に頼らず、必要な職員の採用、診療材料の購入や医療機器の更新、施設・設備の改修等が適切に行える。医療スタッフが経営状況を気にせず、医療行為に専念できる。 結果として、病院として提供できる医療の質が向上し、市民の安心につながるのと同時に、患者が増えて医療収入も増える好循環が生まれる。</p> <p>〈手段・工程〉 ・医師数を増やす。 ・毎月寄せられる「患者の声」も参考にして、患者対応(ホスピタリティ)の向上に努める。 ・一次医療機関や施設との連携強化により紹介患者を増加させる。 ・経費を見直し節減する。</p>

達成状況 (自己評価)	理由
目標の達成水準には届かなかった(60%以上90%未満)	<p>看護補助体制充実加算3を取得し年間約3千万円の増収を図った。また、患者を増やすため、寄せられた患者の声にできる限り対応し施設改修等を行った。紹介患者を増やすため、当院の強みをアピールする資料を作成し伊賀地域内の43の開業医を訪問した。また、昨年度の介護報酬改定により介護老人福祉施設に協力医療機関との連携が義務付けられたため、11月、名張市内の26施設と協定を締結した。(伊賀市内の施設とは昨年度締結済み)</p> <p>このような取組みにより、患者数が増え収入の柱である入院収益は診療報酬が据置の年度であったものの、令和8年3月末時点の対前年度比において、1.2%増加した。一方、経費節減のため三重県共同購入アライアンスへの加入や照明のLED化に取り組んだ。しかし、給与費が2.9%増加した影響が大きく、一時はキャッシュが減少し年度末の9億円以上は厳しい見通しとなったが、国の令和7年度補正による補助金約8,500万円を得られたため、約9億2千万円を残すことができた。</p> <p>なお、呼吸器内科医1名を確保したことにより、外来収益が5.6%増加したものの、診療収益全体では2.3%しか増加しなかった。</p>

<p>◎部局目標2 診療能力の向上</p>	<p>関連の施策・基本事業No: — 常勤・非常勤医師の確保</p>	<p>〈経緯〉 初期臨床研修医を除く常勤医師数は、令和6年4月に20名で、その後消化器内科と麻酔科の医師計2名を確保したが、令和6年度末に外科医1名が退職したため、令和7年4月は21名になっている。 初期臨床研修医については、令和7年4月に4名増えて計7名となっている。</p> <p>〈取り組み目的〉 ・より多くの患者により良質な医療を提供する。 ・初期臨床研修医に必要な適切な指導を行い育成する。</p> <p>〈現状分析〉 医師の派遣を各大学に要請しているが、三重大学からの内科系常勤医師の派遣が長年にわたって実現していない。二次救急当番日の非常勤医師については、令和6年度より滋賀医科大学からの追加派遣が始まっている。</p> <p>〈課題〉 とくに必要としている内科系の常勤及び非常勤医師の確保が必要である。 また、令和8年度以降の初期臨床研修医確保に向けた取り組みが必要である。</p>	<p>〈目標数値〉 常勤医師1名以上確保 非常勤医師2名以上確保</p> <p>〈達成された状態〉 医療提供体制が充実し、より質の高い医療が提供できる。</p> <p>〈手段・工程〉 ・三重大学、関西医科大学、滋賀医科大学の各医局への定期訪問を継続するとともに、他の大学へも派遣要請を行う。 ・医師の働き方改革に適切に対応するとともに、医師の負担軽減を図る。 ・基幹型臨床研修病院として初期臨床研修医及び指導医の確保に努める。また、医学生を対象とした研修病院説明会等に積極的に参加し、当院の研修の魅力を発信する。</p>
<p>◎部局目標3 伊賀地域の二次救急医療体制の充実</p>	<p>関連の施策・基本事業No: — 当番日における二次救急患者の確実な受け入れ</p>	<p>〈経緯〉 伊賀地域の二次救急体制は、岡波総合病院、名張市立病院及び当院の3輪番制となっている。当院では、当番時間帯において断らない救急をめざしている。</p> <p>〈取り組み目的〉 二次救急患者が速やかに検査や治療を受けることができるよう、救急受入体制を整備する。</p> <p>〈現状分析〉 救急当番時間帯における依頼に対する受入率は約99%となっている。</p> <p>〈課題〉 当番日における内科及び外科医師の確実な確保と繁忙期における医師の増員が必要である。</p>	<p>〈目標数値〉 受入率 99%以上</p> <p>〈達成された状態〉 二次救急患者の治療開始までの時間短縮が図られ、また高度急性期医療が必要な患者であれば速やかに三次医療機関へつなぎ、救命率向上や後遺障害の軽減が図られる。</p> <p>〈手段・工程〉 ・受け入れできなかった事例について、週1回の院内会議で妥当性を検証する。 ・当番日に救急に対応できる医師を確実に確保する。 ・救急担当の看護師1名を、14項目の特定行為が可能な特定看護師の資格を取得させるため、研修に派遣する。 ・災害発生時にもBCPに沿って救急患者等の受け入れを行えるよう、訓練を実施する。</p>

<p>目標としていた達成水準に到達した(100%)</p>	<p>大学訪問と個別の勧誘に取り組み、呼吸器内科の常勤医1名を確保できたことにより、呼吸器科の患者数が前年の約2倍に増加した。また、消化器肝臓内科について会計年度任用職員1名を確保し、さらに令和8年度からの常勤医1名を確保することができた。循環器内科の常勤医師が退職したため、市内クリニックの医師に週に一度の外来を依頼した。なお、週に1日の非常勤ではあるが、三重大学第一内科からの循環器内科医1名派遣をおよそ14年ぶりに実現できた。 完全予約制としている乳腺外来に、新しく非常勤女性医師1名の外来を月に2日確保したことにより、外来患者数が昨年より約154人増加した。 初期研修医については、基幹型研修病院3年目に初めてマッチングが1名成立した。また2次募集により1名を確保した。 これは毎年、名古屋および大阪で開催される研修病院合同説明会への出展や、視察希望者を積極的に受け入れてきた成果と考えている。</p>
<p>わずかに目標の達成水準に達しなかった(90%以上100%未満)</p>	<p>安定した救急受入体制を維持するため、平日及び夜間・休日の当番日の内科系・外科系の非常勤医師の確保が必要だが、三重大学及び滋賀医科大学の各救急科やフリーの医師等を確保できず、余裕のある体制となっている。 今年度は、看護師1名を特定行為研修に派遣するなど、スタッフの資質とモチベーションの向上を図った。 令和7年1月から12月における救急当番時間帯の受入れは、依頼件数1,332件に対して97.4%を受け入れた。 引き続き、断らない救急をモットーに受入体制の充実に努めたい。</p>

<p>◎部局目標4 疾病の早期発見・早期治療</p>	<p>関連の施策・基本事業No: — 検診内容の充実と健診後のフォロー</p>	<p>〈経緯〉 新型コロナウイルス感染症の影響で、全国的に検診受診者が減少し、当院でも令和2年度以降の健康診断、人間ドック等の利用者数は令和元年度を下回っていたが、令和6年度に令和元年度を131人上回った。</p> <p>〈取り組む目的〉 疾病の早期発見・早期治療により、市民の健康をサポートする。</p> <p>〈現状分析〉 令和6年度の健康診断、人間ドック等の利用者数は8,857人で前年度より363人増加した。 なお、乳がん検診D・E判定者のうち当院受診率は67%となっている。</p> <p>〈課題〉 リピーターに加え新規の検診受診者が増えるよう取り組む必要がある。</p>	<p>〈目標数値〉 検診等利用者数 9,000人 乳がん検診D・E判定者の当院受診率 70%</p> <p>〈達成された状態〉 疾病を未然に防いだり、がんや生活習慣病の早期発見・早期治療により健康寿命が伸び、健康に暮らす市民が増える。</p> <p>〈手段・工程〉 ・より快適に検診を受けられるよう効率性とホスピタリティを向上させる。 ・令和6年度から始めたDWIBS検診の有用性をアピールし受診者を増やす。 ・非常勤医師を確保し乳腺外科の外来を増やす。</p>	<p>目標としていた達成水準に到達した(100%)</p>	<p>健診受診率向上につなげるため7年ぶりに市民公開講座を開催し、外科医が「がん検診を受けましょう」の講演を行った。 また、胃内視鏡検査を行う非常勤医師1名を確保し、受入を週に5枠増やすことができた。 検診等利用者数は令和8年3月末までで9,118人で、昨年度より261人増えた。生活習慣病予防健診が241人増えたが、2～3年に1回が目安の脳ドックは67人減少した。 乳腺外科の女性非常勤医師の外来日を設けたことにより、乳がん検診D・E判定者のうち、精密検査のための当院受診率は令和8年3月末で約77%となり、昨年同時期を12ポイント上回った。 今後さらに利用者を増やすため、新たな健診メニューとして、1月から「MRI物忘れ検診」と「DWIBS+乳房MRI検診」を新設するとともに、市民公開講座に協賛してくれた企業を放射線科医とともに訪問し、新メニュー及び既存メニューの案内を行った。</p>
--------------------------------	---	---	---	-------------------------------	--